

南陽（なんよう）

登録番号：種苗名称登録第326号

育成者：青木 明 鈴木寅雄 中村善一郎

登録年月日：昭和53年7月12日

鈴木清吉 石塚昭吾 菊地善吉

登録者：山形県（山形市松波2丁目
- 8 - 1）

木戸啓二 佐竹正行

来歴：「ナポレオン」の自然交雑実生

特性

■栽培特性

樹姿は若木のうちに直立し、樹勢は強く、新梢も太い。結果期になるに従い開張し、結果枝は下垂する。花芽の着生は中位であるが、樹勢が強いうちは花束状短果枝が少なく、花芽が消失しやすい。葉の大きさは大で、生育期には葉表が内側に巻く性質がある。

開花期は山形県で「佐藤錦」より2日前後遅い。「佐藤錦」と同じ交雑不和合性因子を持つので、「佐藤錦」と交雑和合性のある品種とは交配が可能である。つまり、交雑和合性のある品種は「高砂」、「ナポレオン」等であり、「佐藤錦」、「ダイアナブライト」とは交雑不和合性である。

■果実特性

果形は長心臓形で、果実重は8～10gと「ナポレオン」より大きくなる。核は楕円形、半離核性で果実の割には小さい方である。果皮色は淡紅色である。糖度は16%程度、pHは3.7～4.0で酸が少なく、すっきりした甘味で食味は良好である。果肉は、乳白色で、熟度が進んでも核やその周辺に着色することはない。肉質は硬く、緻密である。過熱になると、果梗の付け根が浮きやすいが、軸抜けするほどではない。成熟期は、山形県で満開後56～60日で、「佐藤錦」と「ナポレオン」の間に収穫される。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

主要病害の灰星病については「佐藤錦」の発生とほぼ同じである。

樹勢が落ち着かないと、花芽の着生が不良であるので樹勢を落ち着ける栽培をする。開花期は栽培品種の中でも最も遅いので、山形県では「ナポレオン」、「高砂」等とは3日前後の遅れとなる。このため、受粉のうまく行かない年が多く、結実は不良である。しかるに植栽に当たっては、開花期を考慮して授粉樹を選ぶことや、人工受粉の徹底が必要である。また、果皮着色はやや劣るので、日当たりの良い樹形に整形するほか、北海道、山形県等で優良着色系が選抜されているので、これらの系統を植栽すると良い。

■地域適応性

栽培は通常のアウトウが栽培できる地域では可能であるが、山形県では通常の年は開花期の関係で結実は不良である。他の品種との開花期のズレは暖地に行くほど開くので、暖地ほど受粉が難しくなることが予想される。本品種は、アウトウ品種の開花期が揃う、北海道、青森県が適地となっている。平成7年度の栽培面積(ha)は、全国126.8、北海道50.9、青森県40.7、山形県33.0となっている。

(西村幸一)